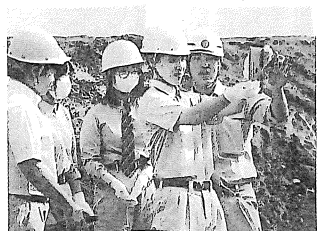


最新の建設技術を紹介

平田建設 帯工生対象に



ている。体感して建設業に興味を持つ」と述べた。

引き続き、座学ではi-Construction・建設DX、CIM等について、質疑応答を交えながら学ぶとともに、同社に勤務している卒業生との座談会を行った。

いる。建設の状況、本当の姿を見てもいい、今後の就職活動において少しでもいいから建設業を思い出し、てほしい」と見学会の成果に期待した。

帯広開建帯広農業事務所の岩淵雄大第一工事課長は「近年、デジタル技術が進み仕事の方法が変わってき

このあと、芽室町内で施工する開建発注一芽室川西地区上流川第2幹線用水路上流工区の現場へ。現場では4班に分かれて見学と体験実習を行い、現在行われている建設業の仕事内容や自動化・機械化施工について学んだ。

【帯広発】帯広平田建設(平田 長川雅毅社長)は18日、日立建機日本㈱の協力のもと帯広工業高校の生徒を対象とした、i-Construction・建設DX現場見学会を開催した。写真1。生徒たちは3D MC、バックホーの操縦やGNSS測量などの体験を通じて、自動化・機械化が進む建設業を体感。熱心に説明を聞き、今後の進路選択の参考にした。

現場見学会は、2019年度から開催。今回は同校環境土木科の2年生36人が参加した。

中札内文化創造センターでの開催式であり、立つた長谷川社長は、i-Constructionや建設DXの目的について「生産性の向上、担い手不足、作業員の高齢化などを補うこと」と説明し、「働き方改革などを含め、建設業は様々な課題に取り組んで

9/20 建設



市内の現場に帯広工高環境土木科の2年生36人を招き、建設DX見学会を開いた写真。

帯広開建から受注した芽室川西地区上流川第2幹線用水路上流工区で実施。UAV体験など4コーナーを用意し、最新の施工技術を紹介した。

生徒は重機の実験機を通して、ICT建機の有用性を肌で感じ

帯広工高生招き建設DX見学会

平田建設

【帯広】平田建設(平田 長川雅毅)は18日、帯広